

## 合格者の声

### 試験勉強を通して、仕事へのモチベーションも上がりました

#### 高松 智子さん

大阪府在住  
生命保険会社勤務



#### ——合格通知を手にしたときのお気持ちは？

**高松** とにかくほっとして、「あー、よかった」と思いました。封筒の厚さが去年と同じくらいの気がして、こっそり開けてみると、去年より枚数がちょっと多く合格通知も入っていました。実は、今年は2度目のチャレンジ、去年は2次試験で不合格だったんです。思わず、主人に日本産業協会のホームページを見せながら「こんな受けてで……」と話しました。

#### ——受験しようと思ったきっかけは？

**高松** この資格自体は前から知っていたんですが、少し敷居が高い感じでした。変わったのは、一昨年、直属の上司に受験を勧められたことから。また、現在は営業所で営業職員さんのフォローなどにあたっていますが、今後、直接お客様とお話する仕事に異動することになったときに備えておきたかったこともありました。

通信講座のテキストを購入して勉強を始めました。生活関連分野とかはよかったんですけども、経済などはしんどかったですね。それでも去年、第1次試験は合格しました。

今年は、通勤の電車の中で第2次試験の問題に取り上げられそうな新聞記事について「自分の意見はこう」と頭の中でまとめていました。6歳の子供がいるので、まとまった時間がなかなか取れないためです。紙に書くのは、主人に子どもを習い事に連れていってもらっている時間をあてました。

#### ——資格を取得して、よかったと思うことはありますか。

**高松** 服を買うときに表示も見erようになりました。「この表示はそういう意味やったんや」とわかって、買い物をする視点が変わりました。なんといっても、自分自身の仕事へのモチベーションが上がりましたね。資格を取るために2年がかりで勉強するというのは久しくなかったの。やは

り企業で働いていくうえでは勉強していかないといけないわけで、それを合格という形でひとまず結果を出すことができました。社内の消費生活アドバイザー取得者の会合にも出席したいと考えています。

#### ——今後、資格を活かしてどのようなことにチャレンジしたいですか。

**高松** 会社にはお客様の声を活かして改善を提案する制度があります。そこに、消費者目線をさらに意識してお客様の声を取り入れた提案をどんどんしていきたいですね。

また、消費生活アドバイザー資格取得の勉強を通して、トラブルが起きるのにはいろいろな背景があることがわかりました。そこを踏まえて仕事をする事で回避できるトラブルもあるかと思ひます。生命保険会社の営業職員はお客様のお宅にうかがうことの多い仕事です。そうした訪問で、たとえば一人暮らしの高齢者の方のもとに不要と思われる品物が大量にあったときには声かけをするとか。高齢者の方を地域でサポートすることのお手伝いをするような活動をしていきたいと思っています。

(職場への電話にて)

### 県内の消費者問題のリーダー役を育成するため、「隼よりはじめよ」で受験 (関連記事7ページ)

#### 山形 英幸さん

滋賀県在住  
滋賀県職員



#### ——試験合格おめでとうございます。合格してどんなお気持ちですか。

**山形** 日本産業協会のホームページに合格者の名が載っていると電子メールが入り、早速、職場で見たところ同僚と私の名が載っていました。職場では、「私も受験します」と宣言していましたから、「隼よりはじめよ」が実践でき、よかったとほっとしました。

私は消費者行政を担当していますので、その関係の知人などからお祝いのメールやお言葉をいただき、だんだんうれしい気持ちになりました。

#### ——この試験を受験した動機は？

**山形** 今の仕事に関係する知識を体系的に頭に入れるため。もう一つは、「滋賀県消費生活講座 in BKC」と名付けた事業を受講者の目線で推進するためです。この講座は、地元の立命館大学BKC(びわこ・くさつキャンパ

ス)の協力を得て、消費者問題に理解のあるリーダー的人材を育成する目的で企画・実行したものです。

消費生活アドバイザー試験の合格を講座のテーマに据え、受講生が合格目標をもって勉強することで、知識を幅広く吸収していただくことを意図しています。有資格者の日々の行動が、家族・友人・地域を通じて波及することで「消費者市民社会の実現」に着実に近づくと考えています。

事業を推進するうえで、数値的目標を掲げることが重要だと思えます。私は、「滋賀県での合格者を3倍にする」と自らに課して、受講生の方々と一緒に勉強して合格しました。昨年の合格者6人に対し、今年は16人とわずかに足りず残念です。

——資格をどのように活かしていきますか。

**山形** 私は大阪で信託銀行に勤務していましたが、Uターンをして滋賀県庁に勤め、現在、消費者行政を担当しています。消費者志向の考え方が大切なことは、民間企業であっても、行政機関であっても変わりはありません。「県民の方々に、どのような施策を、どのように提供するのか」、問題の所在とその構造を捉えて、有効な解決策を打ち出すには、消費生活アドバイザー試験で得た幅広い知識が役に立つものと考えています。来年度も同様の事業をパワーアップして実施する予定ですが、私自身が消費生活アドバイザーとして、立命館大学や消費者団体の方々と一緒に協力しながら、自信をもって受講生の方々に効果的な事業を推進できます。

将来、社会に出て活躍する学生の皆さんに大いに受験を勧めたいですね。資格取得が就職活動に直接役立つというわけではありません。しかし、合格を目指す勉強を通じて、消費者の視点で幅広いものの見方ができるようになり、消費生活だけでなく、ビジネスの様々な場面で必ず役立つからです。(滋賀県庁を訪問して)

## 資格を知り新たな夢がもてました。 社会的弱者のために働きたい

**川部 静さん**

熊本県在住  
ホテル勤務



——4日間の実務研修に出席の時間はどのようにして  
つくりましたか。

**川部** 私は現在、熊本のホテルでバンケット業務に就い

ています。経歴書での手続きができるほどの実務経験がないので、実務研修の受講の道を選びました。4週8休の勤務で仕事から週末は休めません。平日の4日は勤務調整で休めました。実務研修が終わったら土曜から仕事です。バンケット業務は、華々しく見えますが肉体労働です。1日に3回同じ会場で宴会のある日の回転時は戦場さながらです。

——合格通知を手にしたときのお気持ちは？

**川部** 受験勉強にかけた時間や費用が無駄にならなくてよかったの一言です。今の仕事は3月までの契約です。4月からの仕事というか、これからの道をいま思案中です。この資格を活かし、社会的弱者のために働けたらと淡い思いをしていますが、世の中、そう甘くはないですよネ。

——消費生活アドバイザー試験との出会いは？

**川部** 岡山の大学で農芸化学を学びました。卒業後は、故郷の熊本の食品メーカーに勤務、品質管理室で食品衛生、食品表示の業務に携わっていました。インターネットでISOや表示に関する法規制などの情報を収集するなかで、食品関係の資格試験を知り、その延長で消費生活アドバイザー試験も知りました。当時、私は食品表示の問題で思うことのある毎日でした。そこで、消費生活アドバイザーの資格を取得しての新たな道への夢をもつようになりました。やるとなればやれる自信がありました。産能大の通信講座を3か月で済ませ第1次試験に臨みました。今日まではすべて計画どおりに進んでいます。

——抱負やこれから試験にチャレンジしようとする方へアドバイスを。

**川部** 企業の消費者志向経営とは「言うは易し」ですね。中小・零細企業では、法令遵守もギリギリではないでしょうか。従業員の生活もかかっていますので、企業は利益を上げて存続しつづけなければならないのです。消費生活アドバイザー試験のために学んだことは、どんな仕事にでも役に立つものと思います。資格は実務直結とはいえませんが、私も、ものの見方や捉え方がバランスよくなってきたとつくづく思います。

(消費生活アドバイザー資格取得の実務研修の会場にて)